

2022年度

ニュージーランド 留学報告書

実習先：ニュージーランド国立ワイカト
大学

実習期間： 9月18日 ～ 1月20日

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21020109
氏名：宮崎 李玖斗

目次

1. 留学先及び留学期間	3
2. 留学先概要	3
3. 留学目的	3
4. 留学内容	3
4-1. 留学のスケジュール	4
4-2. 留学の詳細	5.6
5. 当初目的・目標への達成度	6
6. 反省点・課題	6
7. 謝辞	6

付録

留学日誌と文化について	7
-------------	---

1. 留学先及び実習期間

留学先：ニュージーランド国立ワイカト大学

実習期間：令和3年9月18日(日)～1月20日(金)

※出国は9月17日 ※帰国は1月21日(土)

2. 留学先概要

(1) 大学について

ニュージーランド国立ワイカト大学は、北島の中心地・オークランドから約130km南、ハミルトン市にある国立総合大学である。65ヘクタールもの広大なキャンパスには3つの池があり、その周りを色とりどりの花や木々が取り囲む、自然と調和した素晴らしい環境にある。ワイカト大学の学生数12,000人のうちおよそ2,000人が留学生で、その出身地は88カ国にも及ぶ国際的な環境が特徴である。また、ワイカト大学は様々な研究分野で高い評価を得ている。留学に最適な環境が整っているため、初めて留学する人のファーストステップとして、とても最適である。

(2) 大学で行われている教育について

短期留学、中長期留学、大学進学を目指す人に合わせた三つのカリキュラムがある。まず、3週間からの短期留学をご希望の方、もしくは、長期コースに入る前の準備コースとして、日常会話スキルを高めたい方へオススメのプログラムが短期留学である。次に、英語4技能の底上げを目指すプログラムで、その後の進学にも生かせるアカデミックな内容を学ぶことが出来る三か月以上のプログラムである中長期留学がある。最後に、ワイカト大学進学を目指す方、アカデミックコースから一歩進んだ深い学びを得たい方へオススメのプログラムである大学進学コースである。一部、学部の授業を学部生に混じって受講する機会もあるので、進学後のイメージを具体的にすることができるプログラムである。

3. 留学目的

今回の留学における個人的な目的は、英語力の向上・異文化理解を深めること、そして、価値観の再構築である。日本での英語学習は文法やリスニングなどが中心であり、書く、聞くのスキルを伸ばすという主にTOEICでのスコアアップを目的とした学習がほとんどである。そのため、スピーキング力を向上させることが難しい。英語が主言語の国で生活することによって、これらの能力を向上させることができる。また、ホームステイ先での生活は、英語に常に触れていられる環境なので英語学習の環境にとってもマッチしている。海外で実際に生活することによってニュージーランドの文化を肌で感じ、体験できる。様々な国の人と関わることで日本には学べないことが沢山ある。そし

て、日本では体験することが出来ないような経験を通して、現在の価値観を変えることが出来る。

4. 留学内容

以下から留学内容を記述する。

留学期間中に行った活動の詳細は付録に記載する。

4-1. 留学スケジュール

留学期間中のスケジュールは以下のとおりである。

月	日	内容
9	17	成田空港第一ターミナル集合・出発
	18	オークランド空港到着 ワイカト大学で抗原検査 ホストファミリーと合流
	19	大学説明&インターナショナルオリエンテーション
	23	抗原検査&キャンパスツアー
	26	Queen Elizabeth Memorial Day (NZ Public Holiday)
	28	中国文化体験イベント
	30	日本文化体験イベント
10	1	Hobbiton Movie Set Tour
	8	Waitomo Glowworm Caves Tour
	10	マオリ文化について勉強
	11	マオリ文化についての勉強
	21	ハロウィンパーティー
	24	Labor Day (NZ Public Holiday)
	25~27	Academic English Orientation Week
	31	Academic English コース開始
11・ 12	29~2	テスト期間
12・1	17~3	Christmas & New Year Holiday
1	17~20	テスト期間
	21	NZ 出発&日本到着

時間割

午前 9時から12時 10時半から15分間休憩

昼休み 12時から13時

午後 13時から15時 2時から15分間休憩

※金曜日の午後のみ本学の学生全員が1つのクラスで授業 担当の先生は週替わり

4-2. 留学の詳細

<授業概要>

・ Reading

テキストやプリントの長文を読み、読解力を高める授業だった。比較的容易に理解することが出来る問題であった。

・ Writing

自分の考えを言葉として書く練習であった。

・ Grammar

教科書を用いて文法を学んだ。また、グループワークが多かった。

・ Listening

教科書の問題を用いて英語を聞く能力のトレーニングを行った。ホストファミリーとの会話にも大いに役立った。

・ Speaking

グループワークで教科書の問題について話し合った。また、週に一回、大学の学生との会話の時間があり、友達を作ることが出来た。

・ Pronunciation

先生の発音を真似ることで、ネイティブスピーカーの発音に近づける練習をしていた。

・ マオリ文化についての学習

二回しかなかったが、マオリ言語や文化について学んだ。

5. 当初目的・目標への達成度

この留学において英語力の向上・異文化理解・価値観の再構築することが目的だった。また、留学中で一番伸びたと思うことはスピーキング・リスニング能力である。実際、TOEICのリスニング問題を解いてみたが、以前よりも確実に音を聞き取る能力が伸びていた。常に英語に触れていられる環境で英語を学習することが一番英語能力を素早く、確実に伸ばす勉強法であると気づくことができた。また、ニュージーランドで生活したことにより、色々な考え方の人と話したり、遊んだりしたことによって、価値観にも変化を感じることができた。

6. 反省点・課題

まず、人にもよるとは思うが、日本人は他の国の人に比べ積極性や自己主張が足りないと感じた。外国人は自分の意見をしっかりと言葉にして相手に伝えるが、日本人は相手を傷つけない話し方をする。これは日本人の良い所でもあるが、逆に相手を不意に、傷つける可能性もあるかもしれない。また、日本人同士の会話が日本語だったのでそのような場面も英語で会話すればよかったなと思った。

7. 謝辞

今回お世話になったニュージーランド国立ワイカト大学の先生方、その他携わっていた新潟国際情報大学の先生方、本当にお世話になりましたことを感謝いたします。また新潟国際情報大学からの奨学金により留学することができました。そして、両親や支えていただいた方々に心よりお礼申し上げます。この度は誠に有難う御座いました。

付録：留学日誌

一泊二日で行ったオークランドでの写真。オークランド戦争記念博物館の二体の恐竜。初めて恐竜の化石を見たが、とても印象的だった。

